

EGOTERIC

D-02

取扱説明書

エソテリック製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

エソテリック製品は、最良の音質で末永くお使いいただくために、一台一台を厳しい品質管理のもとに製造しております。最良のコンディションでお使いいただくために、ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みください。また、お読みになったあとは、いつでも見られるところに保証書と一緒に大切に保管してください。

末永くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。

目次

目次	2
安全にお使いいただくために	3
お使いになる前に	5
接続	6
i.LINK (IEEE1394)	8
各部の名称	9
基本操作	10
消音(ミュート)	10
設定モード	11
設定モード時の表示と内容	12
アップコンバート設定	13
デジタルフィルター設定	13
クロック設定	14
クロック出力周波数設定	15
USB入力設定	16
i.LINK入力時再生チャンネル設定	16
i.LINKリモート設定	16
リモコン設定	17
アナログ出力設定	17
XLR出力設定	17
FLディスプレイ表示設定	18
自動FL(ディスプレイ)消灯設定	19
ディマー (DIMMER)	19
パソコンと接続して音楽ファイルを再生する	20
困ったときは	22
出荷時の状態に戻す	22
メッセージ一覧	23
仕様	24
保証とアフターサービス	25
リアパネル	27

Microsoft, Windows XP, Windows Vista and Windows 7 are either registered trademarks or trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries.

Apple, Macintosh and MacOS X are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.






“Super Audio CD” と “DSD” は登録商標です。

“i.LINK” および “i.LINK” ロゴは商標です。





その他、記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

 警告	以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。
 <p>電源プラグをコンセントから抜く</p>	<p>万一、異常が起きたら</p> <p>煙が出たり、変なにおいや音がするときは。 機器の内部に異物や水などが入ったときは。 この機器を落としたり、キャビネットを破損したときは。</p> <p>すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店またはティアック修理センター (28ページに記載) に修理をご依頼ください。</p>
 <p>禁止</p>	<p>電源コードを傷つけない。 電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしなさい。 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしなさい。</p> <p>コードが破損すると火災・感電の原因となります。万一、電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、販売店またはティアック修理センター (28ページに記載) に交換をご依頼ください。</p> <p>電源プラグにほこりをためない。 電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。電源プラグを抜いてから、ゴミやほこりを取り除いてください。</p> <p>交流100ボルト以外の電圧で使用しない。 この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。</p> <p>機器の上に花瓶や水などが入った容器を置かない。 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。</p>
 <p>分解禁止</p>	<p>この機器のキャビネットは絶対に外さない。 キャビネットを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター (28ページに記載) にご依頼ください。</p> <p>この機器を改造しない。 火災・感電の原因となります。</p>
 <p>強制</p>	<p>この機器を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおく。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置く。 ラックなどに入れるときは、機器の天面から15cm以上、背面から10cm以上のすきまをあける。</p> <p>内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p>

安全にお使いいただくために(続き)

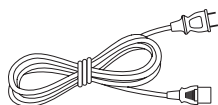
	<h2>注意</h2> <p>以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。</p>
 <p>強制</p>	<p>オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。 また、接続は指定のコードを使用する。 それ以外の物を使用すると故障、火災、感電の原因となります。</p> <p>電源を入れる前には音量を最小にする。 突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。</p> <p>この機器は約27.4kgあり大変重いので、開梱や持ち運びの際はけがをしないように注意する。</p> <p>この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグに簡単に手が届くようにする。 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。</p>
 <p>禁止</p>	<p>ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない。 湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない。 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない。 火災・感電やけがの原因となることがあります。</p> <p>この機器の付属の電源コードを他の機器に使用しない。 故障、火災、感電の原因となります。</p> <p>電源コードを熱器具に近付けない。 コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。 感電の原因となることがあります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない。 コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。</p>
 <p>電源プラグをコンセントから抜く</p>	<p>移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す。 コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>旅行などで長期間この機器を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く。</p> <p>お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜く。 感電の原因となることがあります。</p>

お使いになる前に

付属品の確認

万一、付属品に不足や損傷がありましたら、お買い上げになった販売店または弊社AVお客様相談室(28ページに記載)にご連絡ください。

電源コード×1

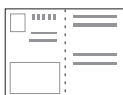


取扱説明書(本書)×1

フェルト×4枚



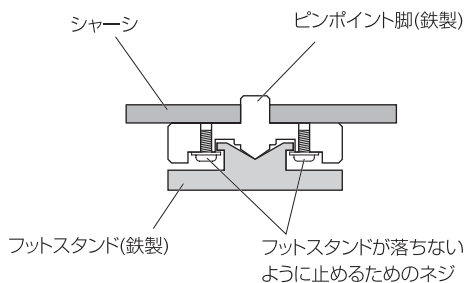
ご愛用者カード×1



設置について

本機の底板には、高精度の鉄製ピンポイント脚が強固に取り付けられています。

フットスタンドはぐらついた状態になっていますが、設置するとピンポイント支持になり、振動を効果的に分散させます。



- 設置面を傷付けたくない場合は、フットスタンドの裏に付属のフェルトを貼ってお使いください。

お手入れ

トップカバーやパネル面の汚れは、薄めた中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いたあと、固く絞った布で水拭きしてください。

ゴムやビニール製品を長時間触れさせると、キャビネットを傷めることがありますので避けてください。化学ぞうきんやベンジン、シンナーなどで拭かないでください。表面を傷める原因となります。

- ⚠️ **お手入れは安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。**

使用上の注意

- 本機の上には物を置かないでください。
- 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くなど、温度が高くなる場所に置かないでください。また、アンブなど熱を発生する機器の上には置かないでください。
- 安定した場所に設置してください。
- テレビ放送の電波状態により、本機の電源を入れたままテレビをつけると画面にしま模様が出る場合がありますが、本機やテレビの故障ではありません。このような場合は本機の電源を切ってください。

電源の極性について

付属の電源コードのプラグ部分のマーク(PSE)は、本機のアース側を示しています。一般的に、家庭用電源コンセントの差し込み口は、長い溝の方がアース側です。

接続時の電源プラグの差し込む向き(極性)によって、音質が変わることがあります。お好みの音質となる向きで接続してください。



A デジタル音声入力端子

デジタル音声を入力します。
デジタル機器(P-01/P-02/P-03/P-05など)のデジタル出力端子と接続してください。

接続には市販のケーブルをお使いください。

XLR : XLRデジタルケーブル
RCA : RCA同軸デジタルケーブル
OPTICAL : 光デジタルケーブル
i.LINK(AUDIO) :
S400対応の6ピンまたは4ピンの
i.LINKケーブル(IEEE1394ケーブル)

- i.LINK(AUDIO)端子は、接続した機器との双方向のデータ転送が可能なインターフェースです。入力/出力の区別はありません。
- i.LINK端子は、6ピンと4ピンの端子を備えています。接続するケーブルによってどちらかをご使用ください。
複数の機器とi.LINKケーブルで接続する場合は、両方の端子を使ってください。(i.LINKケーブルの接続については、8ページをお読みください)
- i.LINKケーブルで接続しておく、入力が他の端子でもi.LINKリモート機能が使えます。(16ページ)
- XLRはDual AES対応です。お手持ちのデジタルソース機器がDual AESに対応している場合は、2本のケーブルを使って本機のXLR(L)端子とソース機器のデジタル出力(L)端子、本機のXLR(R)端子とソース機器のデジタル入力(R)端子をそれぞれ接続してください。

B アナログ音声出力端子 [LINE OUT]

アナログの音声を出力します。
アンプにXLRの音声入力端子がある場合は、市販のXLRオーディオケーブルを使って接続してください。

アンプにRCAの音声入力端子がある場合は、市販のRCAオーディオケーブルを使って接続してください。

エソテリックでは、リファレンスとしてエソテリック MEXCEL ストレスフリー7Nケーブルを使用しています。エソテリック MEXCELケーブルシリーズは、以下のものが発売されています。

RCAオーディオケーブル	BNC同軸デジタルケーブル
XLRオーディオケーブル	スピーカーケーブル
RCA同軸デジタルケーブル	パワーケーブル
XLRデジタルケーブル	

C ワードシンク入出力端子 [WORD SYNC IN、OUT、10MHz IN]

同期信号(ワードクロック)を入出力します。
マスタークロックジェネレーターを使用する場合は、マスタークロックジェネレーターのワードシンク出力端子(WORD SYNC OUT)と本機のワードシンク入力端子(WOR SYNC IN)を接続してください。

10MHz発振器の信号を入力する場合は、発振器の出力を本機の10MHz IN端子に接続してください。

クロック設定で、ワードシンクする端子を選んでください。(14ページ)

ワードシンク出力端子(WORD SYNC OUT)は、デジタルソース機器のWORD SYNC IN端子と接続してください。

接続には市販のBNC同軸デジタルケーブルをお使いください。(WORD SYNC IN/OUT :75Ω 10MHz IN: 50Ω)

D アース端子[GND]

アース端子をD/Aコンバーターやアンプなどとアース接続すると、音質が良くなることがあります。

- 安全アースではありません。

E USB入力端子

パソコンのデジタル音声を入力します。パソコンのUSB端子と接続してください。

接続には市販のUSBケーブルをお使いください。
本機のUSB端子は、USB-Bタイプです。

F 電源インレット

電源インレットに付属のAC電源コードを差し込んでください。全ての接続が終わったら、電源プラグをAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。

- 本機の電源コード接続ソケットは3ピン仕様になっていますが、アースピンはシャーシには接続されていません。

⚠ エソテリック純正の電源コード以外は使わないでください。火災や感電の原因になることがあります。また、長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜いておいてください。

i.LINK (IEEE 1394)

i.LINKとは、国際標準規格であるIEEE 1394の別称です。本機はi.LINK(AUDIO)に対応しています。

本機のi.LINK(AUDIO)端子にi.LINK(AUDIO)対応機器をi.LINKケーブルで接続すると、2chリニアPCM信号やマルチチャンネルの圧縮オーディオ信号に加え、スーパーオーディオCDのマルチチャンネル信号をデジタルのまま伝送することができます。複数のi.LINK対応機器を接続する場合、他の機器を経由して接続してもデータのやりとりが可能ですので、接続順序を意識する必要がありません。

著作権保護システムDTCP

i.LINKを使ってスーパーオーディオCDの音声を再生するためには、再生機器とD/Aコンバーターの双方が著作権保護システム DTCP (Digital Transmission Content Protection)に対応していなければなりません。

本機はDTCPに対応しています。

データ転送速度

本機の最大データ転送速度は400Mbps(S400)です。接続には、市販のS400対応のi.LINKケーブルをお使いください。

複数の機器を接続するときに、データ転送速度の遅い機器を間に挟むと、データ転送速度が遅くなります。できるだけデータ転送速度が同じ機器を上流に並べて接続してください。

フローレートコントロール

本機はi.LINKフローレートコントロール伝送方式に対応しています。フローレートコントロールとは、i.LINK入力より伝送されたオーディオデータを本機内部に設けられたRAM内に一旦蓄積し、本機内蔵の高精度クロックを使いデータをRAMから取り出すことにより、i.LINK伝送時に発生する伝送ジッターを取り除く伝送技術です。再生機と本機とのクロック周波数の誤差により、内蔵のRAMのデータ蓄積が定量よりも大きくなったり、小さくなったりした場合は、本機より再生機に対して、データ伝送の速度を変化させるコマンドを伝送し、本機が再生機をコントロールします。フローレートコントロールは、対応プレーヤーとの1対1伝送時に機能します。

注意

- i.LINKの伝送フォーマットには、本機の「i.LINK(AUDIO)」(A&Mプロトコル)の他に、BSデジタルなどの「MPEG-2 TS」、DVDレコーダーやデジタルビデオの「DV」などがあります。本機にi.LINK(AUDIO)非対応の機器(パソコンの周辺機器など)を接続すると、誤動作や故障の原因になりますので、絶対に接続しないでください。

- データ転送中は、つながっている機器のi.LINKケーブルを抜き差ししたり、電源をオン/オフしないでください。
- i.LINK対応機器によっては、電源がオンになっていないとデータを中継できないものがあります。
- i.LINKに対応していても、機器によっては動作しないことがあります。
- 受信側の機器が本機の出力モードに対応していないことがあります。接続する機器の取扱説明書もよくお読みください。

複数のi.LINK機器を接続するには

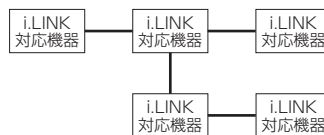
デジチェーン接続 (数珠つなぎ)

数珠つなぎに一系列に接続する場合は、本機を含めて17台まで接続できます。

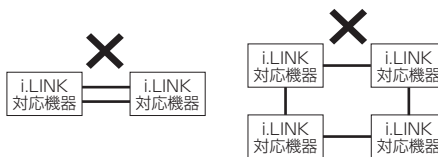


ツリー接続

i.LINK端子を3個以上備えている機器がある場合、途中で分岐して接続することもできます。本機を含めて17台まで接続できます。



信号を出力した機器に、同じ信号が戻ってしまうと動作しません。接続が輪(ループ)にならないように注意してください。

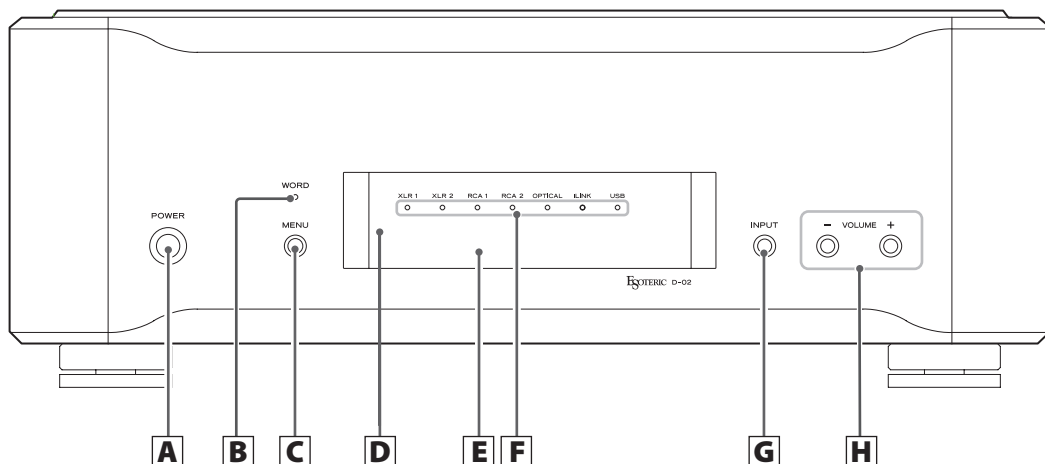


この機器のi.LINKインターフェースは、以下の規格に基づいて設計されています。

- 1) IEEE Std 1394a-2000, Standard for a High Performance Serial Bus
- 2) Audio and Music Data Transmission Protocol 2.0

この規格のAM824 sequence adaptation layers 中の、IEC60958 bitstream、DVD-Audio、スーパーオーディオCDに対応しています。

各部の名称



A 電源ボタン [POWER]

電源のオンとオフを切り換えます。
電源がオンのときは、ボタンの周囲が青く点灯します。
電源がオフのときは、消灯します。

本機を使わないときは、電源をオフにしてください。

B ワードシンクインジケータ [WORD]

ワードシンクの状態を表示します。

青色に光る

クロック設定が「W_OUT」、「W_IN」、「10M_IN」
「MCK_IN」のとき、クロックの探知中はインジケータが点滅して、クロックを感知して同期すると点灯に変わります。

緑色に光る

クロック設定が「PLL2」のとき、クロックの探知中はインジケータが点滅して、クロックを感知して同期すると点灯に変わります。

C メニューボタン [MENU]

設定モードに入ります。(11ページ)

D リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。リモコンを使用するときは、リモコンの先端をこちらに向けて操作してください。P-02に付属のリモコンが使用できます。

E ディスプレー

選択されている入力端子の情報などを表示します。

F 入力インジケータ

選択した入力端子のインジケータが点灯します。

G 入力切替ボタン [INPUT]

デジタル入力を切り換えます。デジタルソース機器が接続されている端子を選んでください。デジタル信号が入力されていないときは、入力インジケータが点滅します。

- P-02付属リモコンの入力切替ボタン(INPUT </>)でも操作できます。

H 音量ボタン [VOLUME]

出力レベルを $-\infty$ (MUTE)、 $-99.5\sim 0.0$ dBの範囲で調節できます。

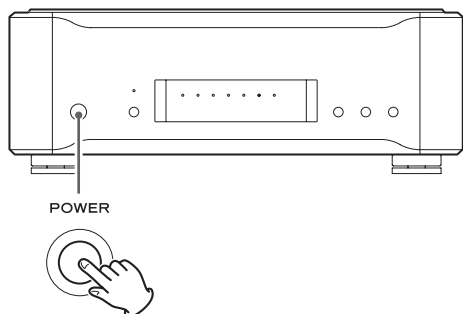
プリアンプ/プリメインアンプと接続し、アンプで音量を調節する場合は、「0.0」に設定してください。0.0dB以外が設定されているときは、ディスプレイにVマークが表示されます。

また、設定モード時のパラメータ変更に使用します。

- P-02付属リモコンの音量ボタン(VOLUME -/+)でも操作できます。
- エンテリックのアンプと同時に使うときは、リモコン設定で「DISABLE」に設定してください。(17ページ)

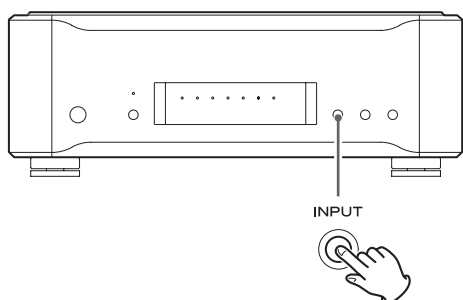
基本操作

1 電源ボタン(POWER)を押して電源をオンにする。

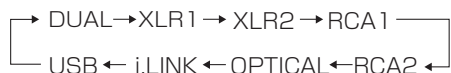


オンになると電源ボタン(POWER)の周囲と本体のディスプレイが点灯します。

2 入力切換ボタン(INPUT)を押してソースを選ぶ。



入力切換ボタン(INPUT)を押すたびに次のように入力が切り換わり、ディスプレイに表示されます。



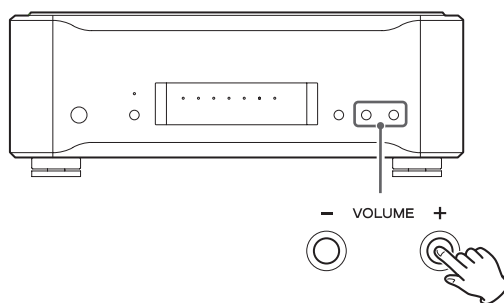
- XLRケーブル2本で接続して、Dual AESで信号を受信しているときに、XLR1を選ぶとLチャンネルのモノラル音声、XLR2を選ぶとRチャンネルのモノラル音声が出力されます。

入力を選んだら、ソースを再生してください。

デジタル信号を感知できない場合、入力インジケータが点滅します。接続を確認してから接続した機器の電源をオンにしてください。

- P-02付属リモコンの入力切換ボタン(INPUT </>)でも操作できます。

3 音量ボタン(VOLUME -/+)で音量を調節する。



アンプで音量を調節する場合は、「0.0」に設定してください。

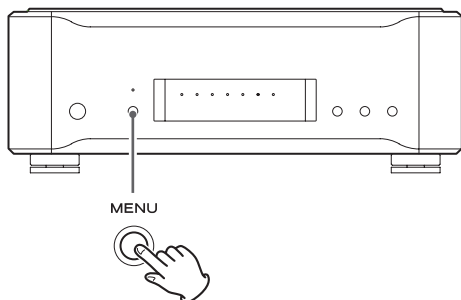
- P-02付属リモコンの音量ボタン(VOLUME-/+)でも操作できます。
- 使い終わったら、電源ボタン(POWER)を押して電源をオフにしてください。

消音(ミュートング)

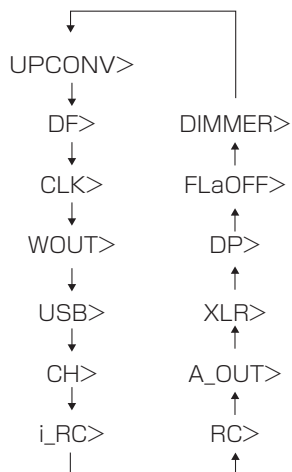
P-02付属リモコンのミュートボタン(MUTING)を押すと、一時的に音を消すことができます。もう一度押すと元の音量に戻ります。

設定モード

- 1** メニューボタン(MENU)をくり返し押し、設定する項目を選ぶ。



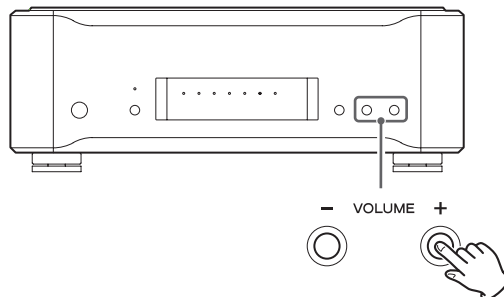
メニューボタン(MENU)を押すたびに、ディスプレイの表示が変わります。



入力切換ボタン(INPUT)を押すか、10秒以上放置すると、設定モードは解除されて通常の表示に戻ります。

- P-02付属リモコンのセットアップボタン(SETUP)でも操作できます。

- 2** 音量ボタン(VOLUME -/+)を使って、設定を変更する。



各設定内容については、12~19ページをお読みください。

10秒以上放置するか、入力切換ボタン(INPUT)を1回押すと、設定を終了して通常の表示に戻ります。

- P-02付属リモコンの入力切換ボタン(INPUT </>)でも操作できます。
- 設定した内容は、電源プラグを抜いた状態で放置しても半永久的に保持されます。

設定モード (続き)

設定モード時の表示と内容

UPCONV>***

アップコンバート設定。
アップコンバートするサンプリング周波数を切り換えます。(13ページ)

DF>***

デジタルフィルター設定。
D/Aコンバーター部のデジタルフィルターの設定ができます。(13ページ)

CLK>***

クロック設定。
外部クロックによる同期設定やワードシンクに対応したソース機器へのクロック出力の設定を行います。(14ページ)

WOUT>***

クロック出力周波数設定。
クロック設定が「W_OUT、W_IN、10M_IN、DIRECT」のときに出力するクロック周波数を設定します。(15ページ)

USB>***

USB入力設定。
USB入力時のモードを設定します。(16ページ)

CH>***

i.LINK入力時再生チャンネル設定。
入力切換がi.LINKのとき、本機が再生するチャンネルを選びます。(16ページ)

i_RC>***

i.LINKリモート設定。
複数のD-02をi.LINKケーブルで接続したときの連動機能の設定を行います。(16ページ)

RC>***

リモコン設定。
エソテリック製のアンプと同時に使用する場合のリモコン設定を行います。(17ページ)

A_OUT>***

アナログ出力設定。使用するアナログ出力端子を設定します。(17ページ)

XLR>***

XLR出力設定。
XLR出力のゲインを設定します。(17ページ)

DP>***

FLディスプレイ表示設定。
FLディスプレイに表示する内容を設定します。(18ページ)

FLaOFF>***

自動FL(ディスプレイ)消灯設定。
ディスプレイ表示を自動消灯する時間を設定します。(19ページ)

DIMMER>***

ディマー設定。
本体ディスプレイとインジケータの明るさを4段階で調節できます。(19ページ)

アップコンバート設定

UPCONV>***

CDなどのPCM信号が入力されているときに、この設定を切り換えることによって、入力信号をアップコンバートしたり、DSD信号に変換することができます。

各入力端子ごとに異なる設定が可能です。

出荷時は「ORG」に設定されています。

ORG

アップコンバートを行いません。

入力信号がオリジナルのままストレートにD/Aコンバーター部に伝送されます。

2Fs

入力された32、44.1、48kHzのソース信号のサンプリング周波数を2倍の64、88.2、96kHzにアップコンバートします。

4Fs

入力された32、44.1、48、88.2、96kHzのソース信号のサンプリング周波数を4倍または2倍の128、176.4、192kHzにアップコンバートします。

DSD

DSD信号にデジタルフォーマット変換します。

- スーパーオーディオCDのDSD信号はアップコンバートできません。

デジタルフィルター設定

DF>***

デジタルフィルターの設定を行います。

重厚な響きの音質を特徴とするFIR型デジタルフィルターと、プリエコーを発生させず音の立ち上がりが優れたS_DLY型デジタルフィルターを切り換えて使用することができます。

各入力端子ごとに異なる設定が可能です。

出荷時は「OFF」に設定されています。

OFF

デジタルフィルターを使用しません。

- この設定では高調波成分が出力されます。高調波成分による混変調などでノイズが出る場合は、設定を「OFF」以外にしてください。

FIR1

入力Fsにしたがって、FIR型フィルターのカットオフ周波数を可変します。

FIR2

入力Fsにかかわらず、FIR型フィルター (カットオフ周波数: 約80kHz)を使用します。

S_DLY1

入力Fsにしたがって、S_DLY型フィルターのカットオフ周波数を可変します。

S_DLY2

入力Fsにかかわらず、S_DLY型フィルター (カットオフ周波数: 約80kHz)を使用します。

- 入力がDSD信号のとき、および信号変換でPCM信号をDSD信号に変換している場合は、この設定は関係ありません。

設定モード (続き)

クロック設定

CLK>***

外部クロックによる同期設定や、ワードシンクに対応したスーパーオーディオCDトランスポートやソース機器へのクロック出力の設定ができます。
出荷時は「PLL1」に設定されています。

PLL1

ワードシンクを使用せず、入力デジタル信号に追従したマスタークロックをPLL回路にて生成します。
広い範囲のクロックに対応した動作が可能です。

PLL2

ワードシンクを使用せず、入力デジタル信号に追従したマスタークロックをPLL回路にて生成し、さらに内蔵の高精度水晶発振器によるPLL回路を使用して、特性の違うPLL回路を2つ使うことにより、オーディオ信号の伝送ジッターを抑制します。

- 内蔵の高精度水晶発振器は、特性を高めるために、周波数可変範囲が狭い仕様となっていますので、ソース機器のクロック精度がその可変範囲(±5ppm)を超える場合は、ロックすることができません。その際は「PLL1」モードを選択してください。

W_OUT

本機のWORD OUT端子とソース機器のワード入力端子を接続し、本機のクロックにソース機器を同期させ、本機の高精度水晶発振器をマスタークロックとして動作させます。出力するクロックの周波数は、クロック出力周波数の項目で設定します。

- ソース機器は本機のWORD OUT端子に接続され、ワードシンクしている必要があります。

W_IN

本機のWORD IN端子にクロックジェネレーターより、ワードクロックを入力し、ワードシンク動作します。

- ソース機器もクロックジェネレーターまたは本機のWORD OUT端子に接続し、ワードシンクしている必要があります。
- WORD IN端子の入力インピーダンスは75Ωで、矩形波TTLレベルの信号の入力が可能です。

10M_IN

本機の10M IN端子にクロックジェネレーターを接続し、10MHzのクロックを入力し、クロック同期させて動作します。

- ソース機器もクロックジェネレーターまたは本機のWORD OUT端子に接続し、クロック同期している必要があります。
- 10M IN端子の入力インピーダンスは50Ωで、振幅レベル0.5～1.0Vrmsの正弦波(サイン波)の信号の入力が可能です。

MCK_IN

本機のWORD IN端子にクロックジェネレーターより、本機のマスタークロックである44.1kHzの512倍の22.5792MHz、または48kHzの512倍の24.576MHzのクロックを入力し、クロック同期させて動作します。
22.5792MHzを入力した場合の入力可能オーディオ信号は44.1kHz、88.2kHz、176.4kHz、352.8kHzです。
24.576MHzを入力した場合の入力可能オーディオ信号は、48kHz、96kHz、192kHz、384kHzです。

- ソース機器もクロックジェネレーターまたは本機のWORD OUT端子に接続し、ワードシンクしている必要があります。
- 音楽再生中にクロックジェネレーターの電源をオフにしたり、ワード接続をはずしてクロックの供給を止めると、スピーカーから大きなノイズが発生することがありますのでご注意ください。

クロック出力周波数設定

WOUT>* * *

WORD OUT端子より出力するクロックの周波数について設定します。

クロック設定が「W_OUT」の場合に表示

44.1、88.2、176.4

WORD OUT端子より、それぞれ44.1kHz、88.2kHz、176.4kHzのクロックを出力します。

22M

WORD OUT端子より、44.1kHzの512倍の22.5792MHzのクロックを出力します。

- 設定「44.1」「88.2」「176.4」「22M」の入力可能オーディオ信号は、44.1kHz、88.2kHz、176.4kHz、352.8kHz、DSDになります。

48、96、192

WORD OUT端子より、それぞれ48kHz、96kHz、192kHzのクロックを出力します。

24M

WORD OUT端子より、48kHzの512倍の24.576MHzのクロックを出力します。

- 設定「48」「96」「192」「24M」の入力可能オーディオ信号は、48kHz、96kHz、192kHz、384kHzになります。

クロック設定が「W_IN」、「10M_IN」、「MCK_IN」の場合に表示

OFF

WORD OUT端子からのクロック出力を行いません。

THRU

WORD INまたは、10M IN端子に入力されているクロックの周波数を変えずにWORD OUT端子から出力します。

- 10M INに0.5 ~ 1.0Vrmsレベルの信号を入力している場合でも、WORD OUTからの出力はTTLレベルでの出力となります。

1Fs

WORD OUT端子から44.1kHzまたは48kHzのクロックを出力します。

- 本機に入力されているクロックおよびオーディオ信号の周波数により、44.1kHzまたは48kHzに決まります。

2Fs

WORD OUT端子から88.2kHzまたは96kHzのクロックを出力します。

- 本機に入力されているクロックおよびオーディオ信号の周波数により、88.2kHzまたは96kHzに決まります。

4Fs

WORD OUT端子から176.4kHzまたは192kHzのクロックを出力します。

- 本機に入力されているクロックおよびオーディオ信号の周波数により、176.4kHzまたは192kHzに決まります。

MCK

WORD OUT端子から44.1kHzの512倍の22.5792MHz、または48kHzの512倍の24.576MHzのクロックを出力します。

- 本機に入力されているクロックおよびオーディオ信号の周波数により、22.5792MHzまたは24.576MHzに決まります。

設定モード (続き)

USB入力設定

USB>***

USB入力時のUSBモードを設定します。設定により、入力可能なサンプリング周波数が異なります。

出荷時は「NOR」に設定されています。

NOR

USBフルスピードモードで接続します。入力可能サンプリング周波数は、32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHzです。

- 本機とパソコンを接続するための専用ドライバーをインストールする必要はありません。パソコンのOSに標準で付属されているUSBオーディオドライバーで接続可能です。

HS_1

USBハイスピードモードで接続します。

入力可能サンプリング周波数は、32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、192kHzです。

HS_2

USBハイスピードアシンクロナスモードで接続します。

入力可能サンプリング周波数は、32、44.1、48、88.2、96、176.4、192kHzです。アシンクロナスモードは、パソコンから伝送されたオーディオデータを本機のクロックに従って再生するモードです。

- 「HS_2」設定で再生音が途切れたりノイズが出る場合は「HS_1」に設定してください。
- パソコン側の再生アプリケーションにより、再生できるファイルの種類やサンプリング周波数などが異なります。
- ハイスピードモード設定では、パソコン側への専用ドライバーのインストールが必要です。ドライバーは下記ダウンロードページよりダウンロードしてください。

専用ドライバーダウンロードページアドレス

http://www.esoteric.jp/products/esoteric/usb/usb_driver.html

i.LINK入力時再生チャンネル設定

CH>***

入力切換が「i.LINK」のとき、本機が再生するチャンネルを選びます。

出荷時は「L/R」に設定されています。

- 入力切換で「i.Link」が選択されているときのみ表示されます。

L/R

フロントの左チャンネルと右チャンネルが出力されます。

C/LFE

本機の左チャンネル出力からセンターチャンネル、本機の右チャンネルからサブウーハーチャンネルが出力されます。

SL/SR

本機の左チャンネル出力からサラウンド左チャンネル、本機の右チャンネルからサラウンド右チャンネルが出力されます。

- ソース機器にて2チャンネルソースを再生時に「L/R」以外が選択されている場合は、本機から音声が出力されません。

i.LINKリモート設定

i_RC>***

複数のD-02をi.LINKケーブルで接続したときの連動機能の設定を行います。

音量、入力ソースの切換、ミュート、ディーマー操作を連動して行うことができます。

出荷時は「OFF」に設定されています。

OFF

連動機能は使用しません。

MASTR

連動機能を使用し、本機に対しての操作を「SLAVE」に設定されている他のD-02に伝送します。

SLAVE

連動機能を使用し、「MASTR」に設定されたD-02から伝送された情報に従って本機が動作します。本機での、音量、入力、ミュート、ディーマーの設定や操作は無視されます。

リモコン設定

RC>***

エソテリックのリモコンでD-02を操作できないように設定できます。

出荷時は「ENABLE」に設定されています。

ENABLE

エソテリックのリモコンで操作できるようにします。
P-02に付属のリモコンなどで操作できます。

DISABLE

エソテリックのリモコンで操作できないようにします。
エソテリックのアンプなどと一緒に使用するときに、
リモコンのアンプ操作でD-02が動作してしまうのを防ぎます。

- ディマーの操作のみ受け付けます。

アナログ出力設定

A_OUT>***

使用するアナログ出力端子を設定します。

出荷時は「RCA」に設定されています。

RCA

RCA端子からアナログオーディオ信号を出力します。

XLR2

XLR端子から2番HOTでアナログオーディオ信号を出力します。

XLR3

XLR端子から3番HOTでアナログオーディオ信号を出力します。

XLR出力設定

XLR>***

XLR出力のゲインを設定します。

出荷時は「0dB」に設定されています。

- アナログ出力設定が「XLR2」「XLR3」に設定されていない場合は、表示されません。
- 接続するアンプにより、「+6dB」設定でRCA端子の入力と同じ音量になるものと、「0dB」設定で同じ音量になるものがあります。

0dB

XLR出力のレベルをRCA出力と同じレベル(0dB)に設定します。

+6dB

XLR出力のレベルをRCA出力の2倍のレベル(+6dB)に設定します。

- 「+6dB」設定で音声クリップしてしまう場合は、「0dB」設定にしてください。

設定モード (続き)

FLディスプレイ表示設定

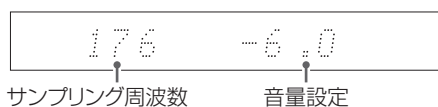
DP>***

FLディスプレイに表示する内容を設定できます。
出荷時は、「Fs+Vol」に設定されています。

Fs+Vol

入力されているオーディオ信号のサンプリング周波数
と音量設定を表示します。

例) サンプリング周波数:176.4、音量設定: -6.0

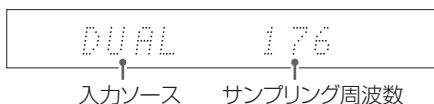


Inp+Fs

入力ソースと入力されているオーディオ信号のサンプリング周波数を表示します。

ES-LINKの信号を受信中には、入力ソース表示部分に「ESL1」「ESL2」「ESL3」を表示します。

例) 入力ソース: DUAL、サンプリング周波数: 176.4



例) ES-LINK信号受信時

入力ソース: DUAL、サンプリング周波数: DSD



Inp+Vol

入力ソースと音量設定を表示します。

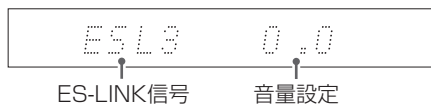
ES-LINKの信号を受信中には、入力ソース表示部分に「ESL1」「ESL2」「ESL3」を表示します。

例) 入力ソース: XLR1、音量設定: 0.0



例) ES-LINK信号受信時

入力ソース: DUAL、音量設定: 0.0

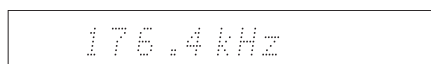


Fs

入力されているオーディオ信号のサンプリング周波数
を表示します。

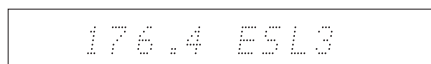
ES-LINKの信号を受信中には、入力サンプリング周波数の右側に「ESL1」「ESL2」「ESL3」を表示します。

例) サンプリング周波数: 176.4kHz



例) ES-LINK信号受信時

サンプリング周波数: 176.4kHz



Volume

音量設定を表示します。

例) 音量設定: -32.5



Input

入力ソースを表示します。

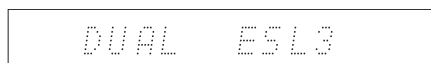
ES-LINKの信号を受信中には、入力ソース表示部分の右側に「ESL1」「ESL2」「ESL3」を表示します。

例) 入力ソース: DUAL



例) ES-LINK信号受信時

入力ソース: DUAL



自動FL(ディスプレイ)消灯設定

FLaOFF>***

FL(ディスプレイ)表示を一定時間経過後、自動的に消灯する設定ができます。

出荷時は、「30m」に設定されています。

15m、30m、60m

それぞれ15分、30分、60分間操作の無い状態が続き、表示に変化がないと、FL表示が自動的に消灯します。

OFF

FL表示は自動的に消灯しません。

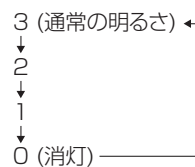
- FL表示管は、同じ表示状態で長時間使用し続けると、輝度ムラが起こることがありますので、自動FL消灯設定を有効にすることをお勧めします。

ディマー (DIMMER)

DIMMER>***

本体のディスプレイとインジケータの明るさを調節できます。

出荷時は「3」に設定されています。



- 「0(消灯)」を選ぶと、ディスプレイとインジケータが消灯します。
- 消灯中に入力切換ボタン(INPUT)などを押すと、数秒間だけディスプレイが点灯します。
- 「3(通常の明るさ)」以外が選択されていても、エラー表示や設定メニュー表示を行っている時は、通常の明るさになります。

パソコンと接続して音楽ファイルを再生する

本機のUSB入力端子とパソコンをUSBケーブルで接続して、パソコンに記録されている音楽ファイルを本機を使って再生することができます。

USB接続できるパソコンのOSは「Windows XP」、「Windows Vista」、「Windows 7」、「Mac OS X 10.6.4以降」のいずれかとなります。これ以外のOSでは動作は保証いたしません。

- パソコンのハードウェア、ソフトウェアの構成によっては、上記のOSを使用しても動作しない場合があります。
- ハイスピード1、ハイスピード2モードで接続する場合、接続前に専用ドライバーをインストールする必要があります。専用ドライバーインストール前にパソコンと本機を接続すると、正しく動作させることができません。またOSにWindows XPをお使いの場合には、パソコンの動作が著しく遅くなってしまい、パソコンの再起動が必要となることがあります。

専用ドライバーダウンロードページアドレス

http://www.esoteric.jp/products/esoteric/usb/usb_driver.html

上記ダウンロードページより、専用ドライバーをダウンロード後、インストールしてください。

本機は、パソコンとのUSB接続時に3つのモードが選択できます。設定方法は、11、16ページを参照してください。

ノーマルモード

USB入力設定で、「NOR」を選択します。

パソコンとフルスピードモードで接続します。

伝送可能サンプリング周波数は、32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHzです。

本機とパソコンを接続するための専用ドライバーをインストールする必要はありません。パソコンのOSに標準で付属されているUSBオーディオドライバーで接続可能です。

- 初めて本機とパソコンを接続した際に、パソコン側で、本機のUSBポートを自動検出し、ドライバーが自動でインストールされます。OSの指示に従って、ドライバーのインストールを完了後に、音楽ファイル再生ソフトを起動してください。正しく接続されると、オーディオの出力先として「ESOTERIC USB AUDIO」が選択可能となります。

ハイスピード1モード

USB入力設定で、「HS_1」を選択します。

パソコンとハイスピードモードで接続します。

伝送可能サンプリング周波数は、32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、192kHzです。

本機とパソコンの接続のために事前に専用ドライバーをインストールする必要があります。専用ドライバーは、左記ダウンロードページより、ダウンロードしてください。

正しく接続されると、オーディオの出力先として、「ESOTERIC USB HS AUDIO」が選択可能となります。

ハイスピード2モード

USB入力設定で、「HS_2」を選択します。

パソコンとHIGH SPEEDアシンクロナスモードで接続します。

伝送可能サンプリング周波数は、32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、192kHzです。

本機とパソコンの接続のために事前に専用ドライバーをインストールする必要があります。専用ドライバーは、左記ダウンロードページより、ダウンロードしてください。

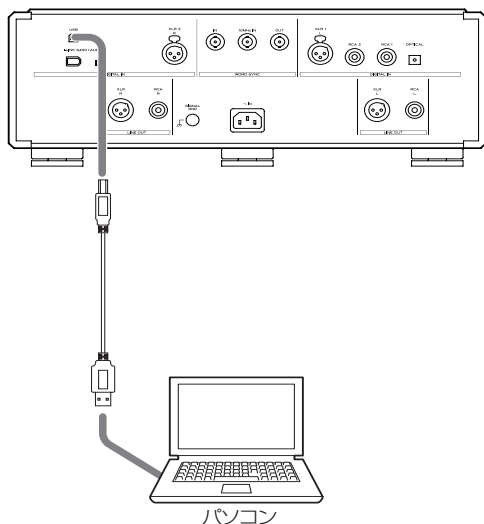
正しく接続されると、オーディオの出力先として、「ESOTERIC USB HS ASYNC AUDIO」が選択可能となります。

アシンクロナスモードでは、パソコンから送出されたオーディオデータを本機側のクロックを使って処理しますので、データ伝送時のジッターを抑制することができます。

- 「ハイスピード2」モードでパソコンと本機を接続した場合に、再生音の途切れや一定間隔のノイズが発生するような場合は、「ハイスピード1」モードを設定してお使いください。

1 USBケーブルでパソコンと本機を接続する。

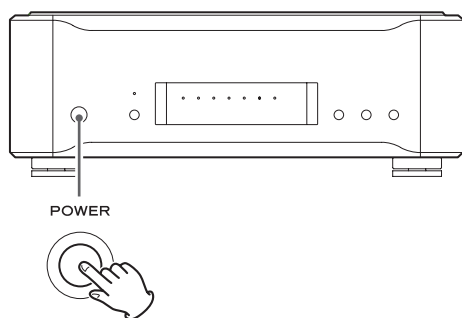
ケーブルは本機の接続端子に合うものをご使用ください。



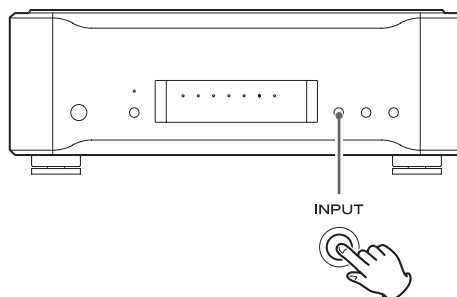
2 パソコンの電源を入れる。

OSが正常に起動できたことを確認してください。

3 電源ボタン(POWER)を押して本機の電源を入れる。



4 入力切換ボタン(INPUT)をくり返し押して「USB」を選ぶ。



5 パソコンで音楽ファイルの再生を開始する。

パソコン側の音量調整は最大に設定して、本機に接続したアンプで音量を調整するとより良い音質が得られます。アンプの音量は再生開始時には最小にし、徐々に大きくして調整してください。

- パソコンから本機をコントロールしたり、本機からパソコンをコントロールすることはできません。
- 本機からUSB経由でパソコンに音楽ファイルを転送することはできません。
- USB接続で音楽ファイルを再生しているときに、以下の操作を行わないでください。パソコンの誤動作の原因となります。これらの操作は必ず音楽再生ソフトを終了してから行ってください。
 - USBケーブルを抜く
 - 本機の電源をオフにする
 - 入力を切り換える
- USB接続で音楽ファイルを再生しているときは、パソコンの操作時のサウンドも再生されます。操作時のサウンドを再生したくない場合は、パソコン側で設定を行ってください。

- 音楽再生ソフトを起動した後で本機とパソコンを接続したり、本機の入力を「USB」に設定した場合は、音楽ファイルが正しく再生できないことがあります。この場合は、音楽再生ソフトを再起動するか、パソコンを再起動してください。

困ったときは

本機の調子がおかしいときは、サービスを依頼される前に以下の内容をもう一度チェックしてください。また、本機以外の原因も考えられます。接続した機器の使用方も合わせてご確認ください。

それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店またはティアック修理センター(28ページに記載)にご連絡ください。

電源が入らない。

- ➔ 電源コードが、本体背面のインレットとコンセントに接続されているか確認してください。
- ➔ 電源コードが接続されたコンセントに電流が流れているか、別の機器を接続するなどして確認してください。

スピーカーから音が出ない。音が歪む。

- ➔ デジタルソース機器、アンプ、スピーカーとの接続を確認してください。(6ページ)
- ➔ 接続した端子に合わせて、入力を切り換えてください。(17ページ)
- ➔ アンプとの接続に合わせて、「XLR出力設定」を行ってください。
- ➔ 入力信号に合わせて「i.LINK入力時出力設定」の設定を適切に行ってください。ステレオ信号の場合は「L/R」に設定しないと音声は出力されません。
- ➔ アンプなどの音量を調節してください。

入力インジケータが点滅する。

- ➔ 選択されている入力端子に接続されている機器の電源を入れてください。
- ➔ 選択されている入力端子が正しく接続されているか確認してください。

「ブツ、ブツ……」と周期的なノイズが出る。

- ➔ ワードシンクモード時にスピーカーから「ブツ、ブツ……」と周期的なノイズが出る場合は、接続している機器がワードシンクモードになっていない可能性があります。ワードシンク端子の接続状態や、接続している機器のワードシンク設定を確認してください。
- ➔ 通常はWRD ERROR表示をしますが、D-02のワードエラー検出限界よりもさらに小さなずれしかない場合、この現象が起こることがあります。

WORDインジケータの点滅が消えない。

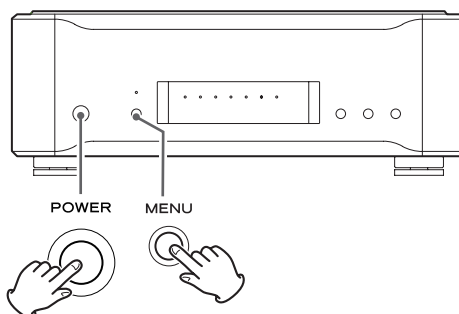
- ➔ ワードシンクを使用しない時は、クロック設定で「PLL1」か「PLL2」を選んでください。(14ページ)
- ➔ 同期できないワードクロックが入力されている可能性があります。ワードシンク端子の接続や、接続している機器の設定を確認してください。

L/R が点滅する。

- ➔ 同時に点滅しているときは、本機の入力切替がDUALになっているのに、ステレオ信号が2本接続されていることが考えられます。ソース機器の出力フォーマットを正しくDUALに設定してください。
- ➔ 交互に点滅しているときは、本機の入力切替がDUALになっているのに、LチャンネルとRチャンネルが逆に接続されていることが考えられます。接続を確認してください。

本機はマイコンを使用しておりますので、外部からの雑音やノイズ等によって正常な動作をしなくなることがあります。このような場合は一旦電源を切り、約1分後に始めから操作してください。

出荷時の状態に戻す



設定した内容は、電源プラグを抜いた状態で放置しても半永久的に保持されます。

以下の操作をすると、設定した内容を工場出荷時の状態に戻し、すべてのメモリーを消去します。

1. 電源をオフにする。

電源がオンだった場合は、電源ボタン(POWER)を押して電源をオフにしてから30秒以上待ってください。

2. メニューボタン(MENU)を押しながら電源ボタン(POWER)を押す。

ディスプレイに「Setup CLR」(設定消去)が表示されたらメニューボタン(MENU)から指を離してください。

メッセージ一覧

サンプリング周波数表示部に---が表示される。

入力された信号に問題があります。
PCMまたはDSD以外の信号は入力しないでください。
デジタル機器との接続を確認してください。
Dolby Digital、DTS、AACなどの信号はデコードできません。再生機側でPCMに変換して出力してください。

入力インジケータが点滅する。

デジタル信号にロックできません。入力切替ボタン (INPUT) を押して、デジタル機器が接続されている端子を選んでください。
接続した機器の電源をオンにしてください。接続した機器の設定を確認してください。

LOOP ERR!

i.LINKの接続がループになっています。ツリー接続にしてください。(8ページ)

NO WORD!

ワードクロック(同期信号)が入力されていません。外部マスタークロックジェネレーターとの接続、マスタークロックジェネレーターの電源や出力状態を確認してください。
ワードシンクを使用しないときは、クロック設定で「PLL1」または「PLL2」を選んでください。(14ページ)

UNKNOWN

i.LINKケーブルで接続されている機器の機種名が不明です。

WRD ERROR!

入力されているソースの周波数がワード周波数と同期していません。スーパーオーディオCD/CDの再生時は、ワード周波数は44.1、88.2、または176.4kHzにしてください。またソース機器が正しくワードシンクできているか確認してください。
ワードシンク端子の接続や、接続している機器の設定を確認してください。
ワードシンク機能のない機器と接続する場合は、クロック設定で「PLL1」または「PLL2」を選んでください。(14ページ)

WRD LCKING

入力されているワードクロックにロック中です。

WRD UNLCK!

入力されているワードクロックにロックできません。
接続したクロックジェネレーターの周波数設定を確認してください。本機には、±5ppm以内のクロックジェネレーターを接続してください。

PLL LCKING

内部PLL回路(PLL2)にロック中です。

PLL UNLCK!

入力されているデジタル信号に内部PLL回路がロックできません。入力されているデジタル機器との接続を確認してください。
入力されている信号の周波数精度が本機のロック範囲を超えている場合は、内部PLL回路(PLL2)がロックできませんので、クロック設定を「PLL1」にしてください。(14ページ)

NO 10MHz!

10MHzのクロックが入力されていません。

10M LCKING

10MHzのクロックにロック中です。

10M UNLCK!

10MHzのクロックにロックできません。

10M ERROR!

入力オーディオ信号と10MHzの入カクロックが同期していません。

NO MCK!

マスタークロックが入力されていません。

MCK ERROR!

入力オーディオ信号と22.5792MHz、または24.576MHzの入カクロックが同期していません。

仕様

アナログ音声出力

端子
XLR端子 (ステレオ) 1系統
RCA (ステレオ) 1系統

出力インピーダンス

XLR 100Ω
RCA 47Ω

最大出力レベル

(1kHz、フルスケール信号入力、10kΩ負荷時)
XLR (0dB設定時) 2.45Vrms
RCA 2.45Vrms

周波数特性 (192kHz PCM信号入力時)
5Hz ~ 55kHz (-3dB)

S/N比 115dB
歪率 0.0008% (1kHz)

デジタル音声入力

XLR端子 2系統
(DUAL入力時はXLR1とXLR2の2端子を使用)
入力レベル 5.0Vp-p
入力インピーダンス 110Ω
DUAL接続時
入力可能サンプリング周波数 32 ~ 384kHz
16bit ~ 24bit
リニアPCM (DUAL AESフォーマット)

DSD (ES-LINK1、ES-LINK2フォーマット)
SINGLE接続時
入力可能サンプリング周波数 32 ~ 192kHz
16bit ~ 24bit
リニアPCM (AES/EBUフォーマット)
DSD (ES-LINK1、ES-LINK2フォーマット)

RCA端子 2系統
入力レベル 0.5Vp-p
入力インピーダンス 75Ω
入力可能サンプリング周波数 32 ~ 192kHz
16bit ~ 24bit
リニアPCM (IEC60958フォーマット)

光デジタル端子 1系統
入力レベル -24.0 ~ -14.5dBm peak
入力可能サンプリング周波数 32 ~ 192kHz
16bit ~ 24bit
リニアPCM (IEC60958フォーマット)

i.LINK (AUDIO) 端子 2系統 (6ピン、4ピン) S400
入力可能サンプリング周波数 32 ~ 192kHz
16bit ~ 24bit
リニアPCM
DSD

USB端子 1系統 (B端子)
入力可能サンプリング周波数 32 ~ 192kHz
16bit ~ 24bit
リニアPCM

PLL2ロック範囲

ロック可能周波数範囲
各サンプリング周波数に対して±5ppmの範囲

クロック出力

端子 BNC端子×1
出力レベル TTLレベル相当 (75Ω負荷時)
出力周波数
44.1、88.2、176.4、48、96、192kHz、
22.5792、24.576MHz
入力と同じ周波数 (スルー出力設定時)
出力周波数精度 ±0.5ppm (出荷時)

クロック入力

端子 BNC端子×2 (WORD IN、10MHz IN)
入力インピーダンス
WORD IN 75Ω
10MHz IN 50Ω
入力可能周波数
WORD IN
44.1、88.2、176.4、48、96、192kHz
22.5792、24.576MHz (±5ppm)
10MHz IN 10MHz (±5ppm)
入力レベル
WORD IN TTLレベル相当
10MHz IN サイン波0.5 ~ 1.0Vrms

一般

電源 AC 100V 50-60Hz
消費電力 14W
外形寸法 (W×H×D、突起部含む)
445×162×438 (mm)
質量 27.4kg

許容動作温度 +5°C ~ +35°C
許容動作湿度 5% ~ 85% (結露のないこと)
許容保管温度 -20°C ~ +55°C

付属品

電源コード×1
フェルト×4枚
取扱説明書(本書)×1
ご愛用者カード×1

仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。
取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

保証とアフターサービス

■保証書

保証書はご愛用者カードと引き換えに発行いたします。添付のご愛用者カードに必要事項をご記入の上、ご購入後なるべく1ヶ月以内にご返送ください。保証書が届きましたら、保証内容をご確認の上、大切に保管してください。保証期間はお買い上げ日から5年です。

- 保証書発行には約1ヶ月程度かかります。あらかじめご了承ください。
- ご記入頂いたご愛用者カードのご購入日が弊社出荷日と大きく異なる場合(6ヶ月以上ご愛用者カードの返送がない場合、ご愛用者カードでのユーザー登録をせず転売された場合等)は、保証書を発行できない場合があります。

無料修理規定

- 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、弊社サービス部門が無料修理いたします。
- 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、保証書をご提示の上、弊社サービス部門またはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前に弊社サービス部門にお問い合わせください。なお、離島および離島に準じる遠隔地への出張修理を行った場合は、出張に要する実費を申し受けます。
- ご転居、ご贈答品等でお買い上げの販売店に修理をご依頼にできない場合は、弊社サービス部門にご連絡ください。
- 次の場合には保証期間内でも有料修理となります。
 - (1) ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
 - (2) お買上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷
 - (3) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
 - (4) 接続している他の機器に起因する故障および損傷
 - (5) 業務用の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷
 - (6) 消耗品の自然消耗、磨耗、劣化や寿命部品等の交換が必要となった場合のメンテナンスやオーバーホール
 - (7) 保証書の提示がない場合
 - (8) 保証書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名(印)の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
- 保証書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
- 保証書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

■補修用性能部品の保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後8年間保有しています。

■ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談、ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店またはティアック修理センター(28ページに記載)にお問い合わせください。

■修理を依頼されるときは

22ページの「困ったときは」に従って調べていただき、なお異常のあるときは使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはティアック修理センター(28ページに記載)にご連絡ください。なお、本体の故障もしくは不具合により発生した付随的損害(記録内容などの補償)の責についてはご容赦ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って、修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

修理料金の仕組み

技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。

測定機等の設備費、技術者の人件費、技術教育費が含まれています。

部品代：修理に使用した部品代金です。

その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料：製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

修理の際にご連絡いただきたい内容

型名：D/Aコンバーター D-02

シリアルナンバー：

お買い上げ日：

販売店名：

お客様のご連絡先：

故障の状況(できるだけ詳しく)

■廃棄するときは

本機を廃棄する場合に必要な収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

分解・改造禁止

この機器は絶対に分解・改造しないでください。この機器に対して、当社指定のサービス機関以外による修理や改造が行われた場合は、保証期間内であっても保証対象外となります。

当社指定のサービス機関以外による修理や改造によってこの機器が故障または損傷したり、人的・物的損害が生じてても、当社は一切の責任を負いません。

電源コードや本体に異常がないか、定期的に点検してください。

内部にほこりがたまっただま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。

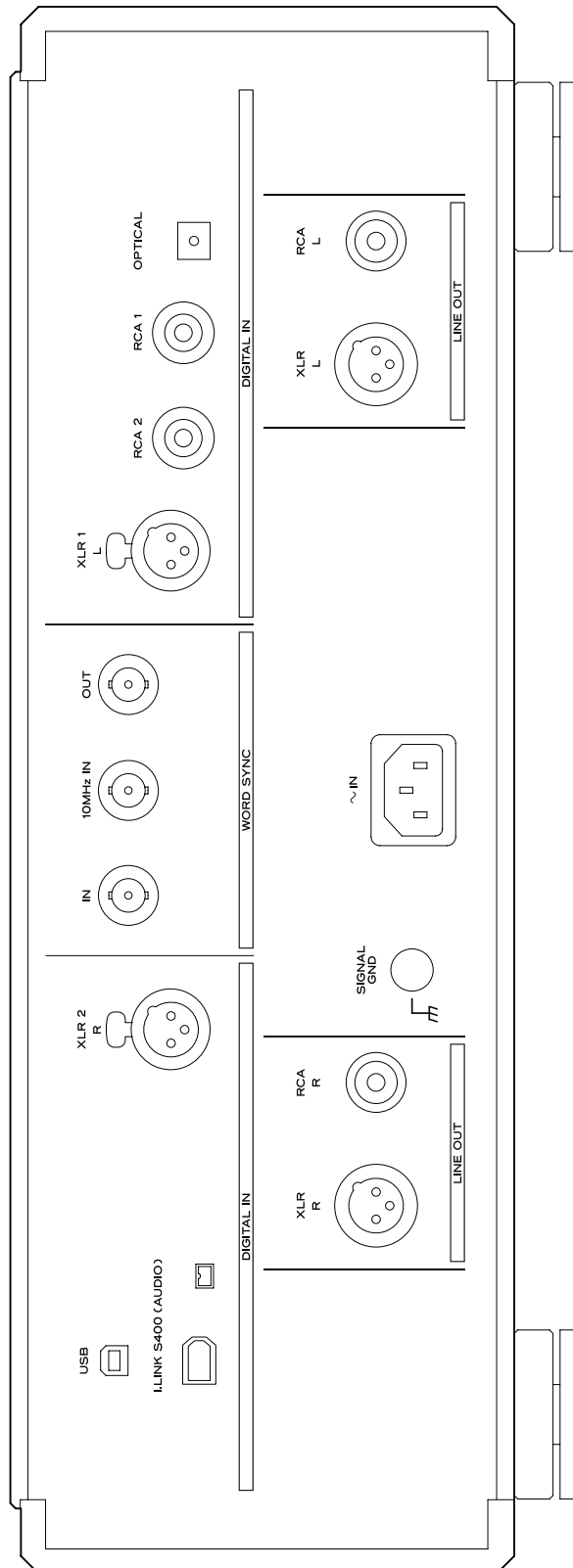
特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。

5年に1度は、販売店またはティアック修理センター(28ページに記載)に内部の点検をご依頼ください。費用についてはお問い合わせください。



愛情点検

リアパネル



エソテリック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

<http://www.esoteric.jp/>

この製品のお取り扱い等に関するお問い合わせは

AVお客様相談室までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～12:00/13:00～17:00です。

AVお客様相談室



0570-000-701

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

電話：042-356-9235 / FAX：042-356-9242

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～17:00です。

ティアック修理センター



0570-000-501

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858

電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

- ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。PHS・IP電話等からはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号にお掛けください。
- 新電電各社をお使いの場合はナビダイヤルをご利用いただけないことがあります。その場合はご契約されている新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号にお掛けください。
- 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。